

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

「オリンピックのキャリアに関する実態調査」調査報告書を発表

オリンピックの主な引退理由（複数回答）**「仕事を優先するため」「年齢による体力的な問題」****がそれぞれ、約5割にのぼる**

笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：小野清子 以下：SSF）では、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催およびその後の社会において、わが国のオリンピックがより効果的にスポーツ界に貢献できる環境の整備に向けて、彼らのキャリアに関する基礎資料の収集が重要と考え、このたび報告書を取りまとめました。本調査には、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会（OAJ）にご協力をいただき、OAJ登録会員965人を対象に、473人から回答を得ました。

本『オリンピックのキャリアに関する実態調査』報告書では、夏季・冬季オリンピックの①基本属性（オリンピック出場回数、オリンピック出場年）、②競技経験（オリンピック出場競技の競技実績、オリンピック競技の開始と継続の要因など）③競技にかかる経費（経費の管理者、競技別の年間経費など）④引退後のキャリア（引退の理由、引退後の競技との関わりなど）の調査結果を示しています。

主なポイント**1. 引退理由**

オリンピックの引退理由は、夏季大会・冬季大会ともに、「仕事を優先するため」の割合が最も高く、「年齢による体力的な問題」「自己の成績に満足したため」と続く。また、冬季大会出場オリンピックの引退理由として「金銭的な問題」が比較的高い割合を示した。

2. 競技にかかる経費の自己負担額

競技を継続するために1年間にかかる経費の自己負担額を、夏季と冬季の大会別・性別の平均で見ると、夏季大会出場の男性が206.2万円、女性が250.7万円。冬季大会出場の男性が245.4万円、女性が460.9万円であった。

3. 引退後の競技との関わり

引退したオリンピックの約6割が競技団体の役職員や強化スタッフまたは指導者として従事し、愛好者として続けている約2割も含めると、約8割のオリンピックが、現在も競技との関わりをもっている。

■研究担当者コメント

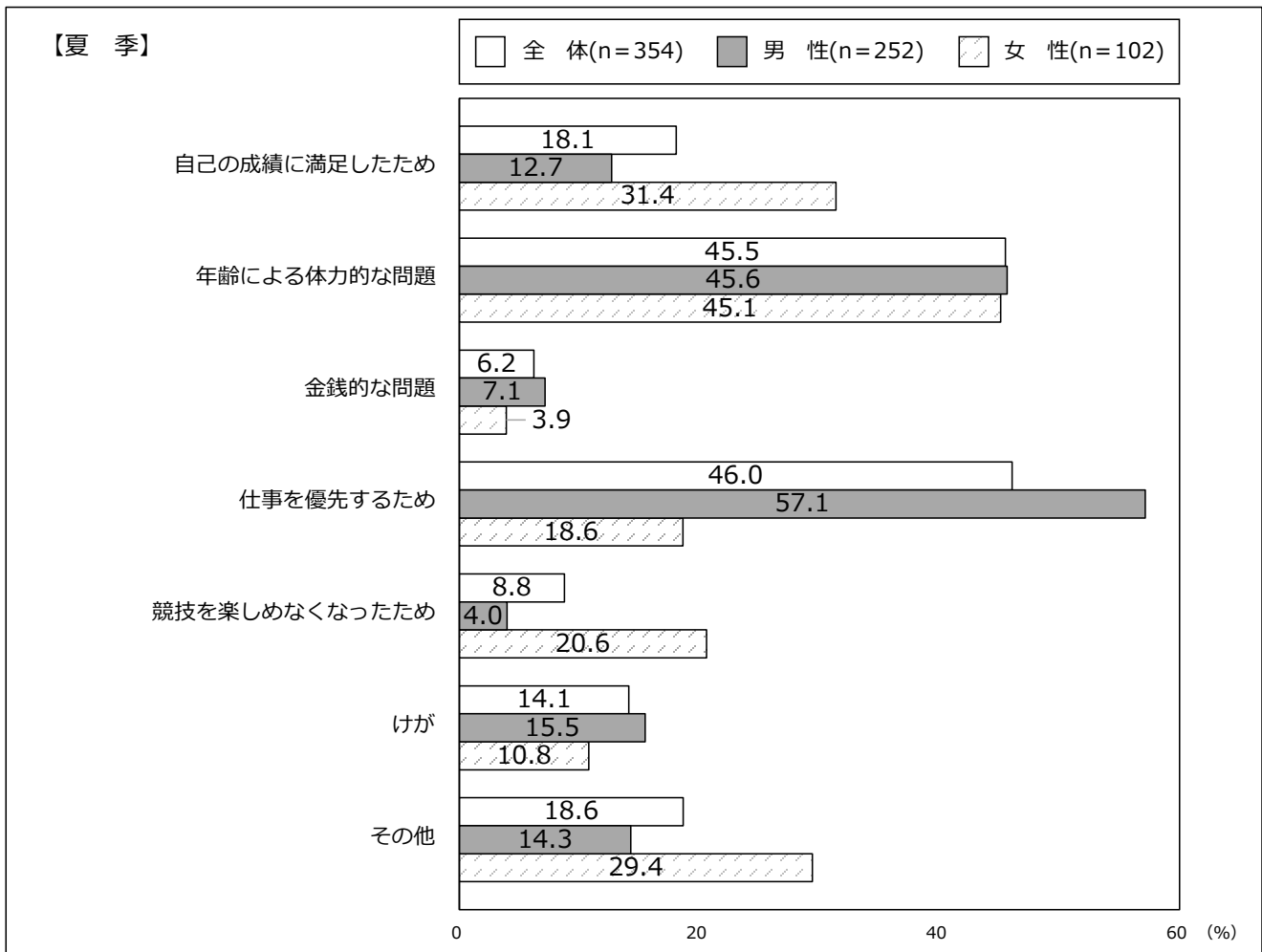
アスリートのキャリア形成は、スポーツ基本計画においても重要な課題として掲げられており、特にセカンドキャリアに関する調査研究や実践事業はさまざま取り組まれている。本調査は、OAJ会員を対象に、競技の開始時期やオリンピック出場までの年数などの競技経験や、競技継続に必要な経費など、これまで把握できていなかった項目も含め、オリンピックのキャリアの包括的な分析を試みた。2020年東京大会以降を見据え、本調査が次世代のオリンピックの競技環境の整備や引退後のキャリアに関する基礎資料となることを期待したい。

【笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 副主任研究員 吉田智彦】

1. オリンピアン引退理由は、夏季大会・冬季大会ともに、「仕事を優先するため」の割合が最も高く、「年齢による体力的な問題」「自己の成績に満足したため」と続く

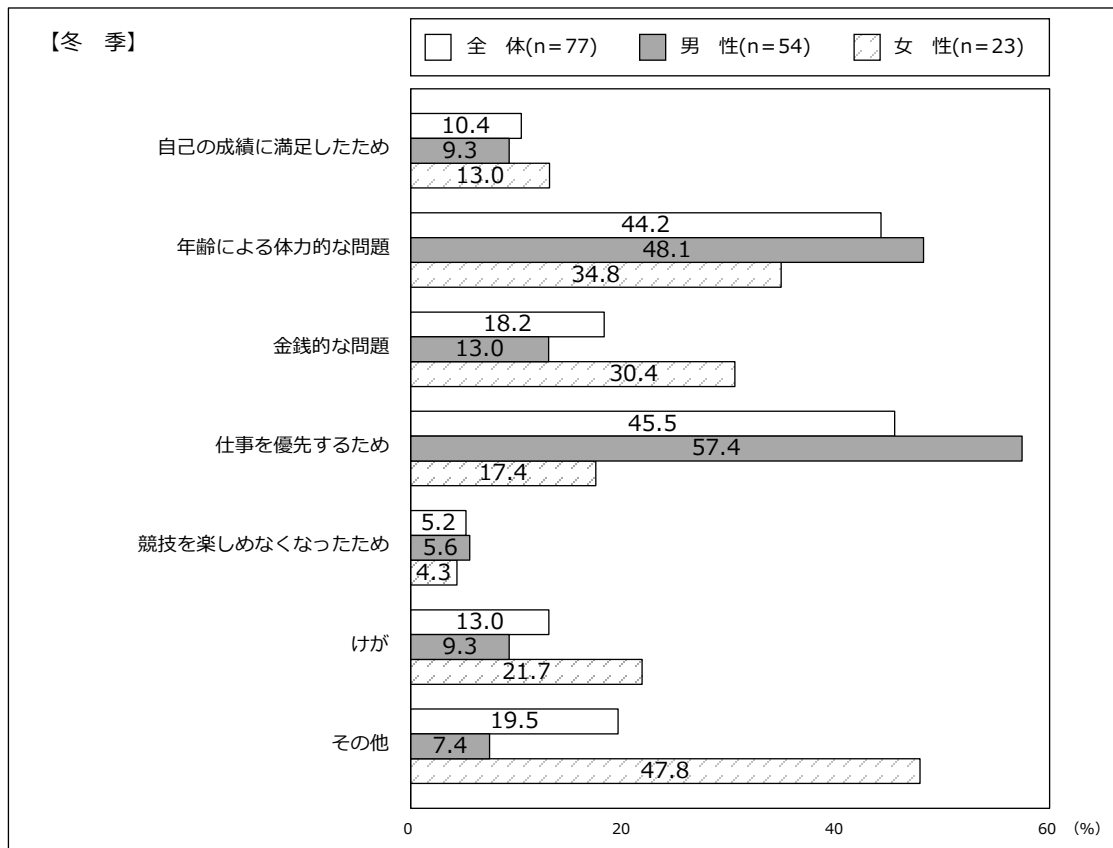
図 14 に、夏季大会への出場経験をもつオリンピック選手の引退理由を示した。全体で最も割合の高い回答は「仕事を優先するため」(46.0%)で、以下、「年齢による体力的な問題」(45.5%)、「その他」(18.6%)、「自己の成績に満足したため」(18.1%)、「けが」(14.1%)、「競技を楽しめなくなったため」(8.8%)、「金銭的な問題」(6.2%)と続く。ただし、「仕事を優先するため」では、男性の57.1%に対し女性が18.6%と大きな差があり、男性の割合が全体を引き上げたことがわかる。相対的に高い割合を示したのは「年齢による体力的な問題」で、男女とも約半数が引退理由に挙げた。一方、女性の引退理由で男性を大幅に上回った項目は、「自己の成績に満足したため」や「競技を楽しめなくなったため」といったいわゆる競技に対する完全燃焼感、あるいは成績の不振等から起こる心理的な要因がみられる。

図 14 夏季大会出場オリンピック選手の引退理由 (n=354、複数回答)



※夏季・冬季の両大会に出場した1名の回答は含まない。

参考 図 15 冬季大会出場オリンピック選手の引退理由 (n=77、複数回答)



2. 競技を継続するために1年間にかかる経費の自己負担額を、夏季と冬季の大会別・性別の平均で見ると、夏季大会出場の男性が206.2万円、女性が250.7万円で、冬季大会出場の男性が245.4万円、女性が460.9万円であった

表 21 に、競技を継続するための年間経費を夏季と冬季の大会別に示した。ここでは、対象とする年度に一定の統一性をもたせるため、オリンピックに出場した前年度に個人で負担した経費の総額を対象とした。なお、オリンピックへ複数回の出場経験がある場合は、最後に出場したオリンピックの前年度の経費をたずねた。夏季・冬季の両大会出場1人を除き、回答を得た325人のうち、夏季大会への出場者では、平均額が男性で206.2万円、女性で250.7万円と女性が男性を上回った。最高額は男性の4,500万円(馬術)であった。冬季大会への出場者では、平均額が男性で245.4万円、女性で460.9万円と、女性が男性を2倍近く上回ったが、最高額は男女とも3,000万円だった。経費の高い順に競技をみると、前述の馬術に続き、スキー、スケート、セーリング、自転車、ウェイトリフティングで1,000万円を超える自己負担額があった。

表 21 夏季・冬季大会別の年間経費の自己負担額 (n=325)

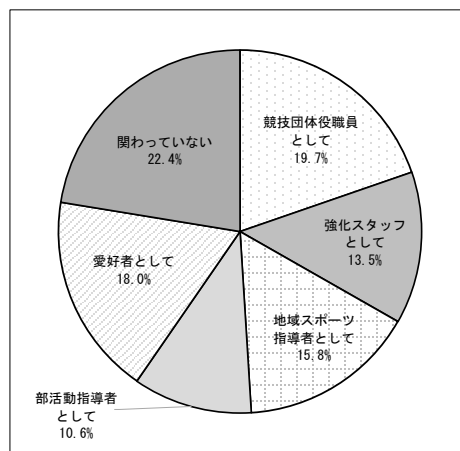
(万円)

		平均金額	最高額	最少額
夏季	男性 (n=191)	206.2	4,500	0
	女性 (n=63)	250.7	1,500	0
冬季	男性 (n=48)	245.4	3,000	0
	女性 (n=23)	460.9	3,000	0

3. 引退したオリンピックの約 6 割が競技団体の役職員や強化スタッフまたは指導者として従事し、愛好者として続けている約 2 割も含めると、約 8 割のオリンピックが、現在も競技との関わりをもっている。

オリンピックに出場した競技との現在の関わりをみると、「競技団体役職員として」が 19.7%と最も多く、以下「愛好者として」(18.0%)、「地域スポーツ指導者として」(15.8%)、「強化スタッフとして」(13.5%)、「部活動指導者として」(10.6%)の順であった(図 20)。約 8 割のオリンピックが、競技団体に従事して競技の普及や強化に携わったり、地域のスポーツ現場で指導者として活躍したり、自身も愛好者として競技を続けたりしている。一方、競技とは「関わっていない」オリンピックは 2 割にのぼった。

図 20 オリンピアン引退後の競技との関わり (n=406)



本調査の目的

2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催およびその後の社会において、オリンピックがより効果的にスポーツ界に貢献できる環境の整備を進めるにあたり、オリンピックの現状を包括的に把握することの重要性に鑑み、わが国のオリンピックのキャリアに関する基礎資料の収集を目的とした。

調査対象：(特非) 日本オリンピックズ協会に登録のある会員 965 人。

調査項目：①基本属性 (オリンピック出場回数、オリンピック出場年)

②競技経験について (オリンピック出場競技の競技実績、オリンピック出場競技以外の競技経験、オリンピック競技の開始と継続の要因)

③競技にかかる経費について (経費の管理者、競技別の年間経費、経費の収入割合)

④引退後のキャリアについて (引退の理由、現在の職業と雇用形態、現在の職業への入職経路、引退後の競技との関わり)

調査期間：2014 年 10 月～11 月

調査方法：郵送法による質問紙調査

調査協力：(公財) 日本オリンピック委員会、(特非) 日本オリンピックズ協会

調査メンバー： 田中 ウルヴェ 京 (株) ポリゴン 代表取締役、笹川スポーツ財団 理事
 吉田 智彦 笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所 研究員
 高橋 光 笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所 研究員